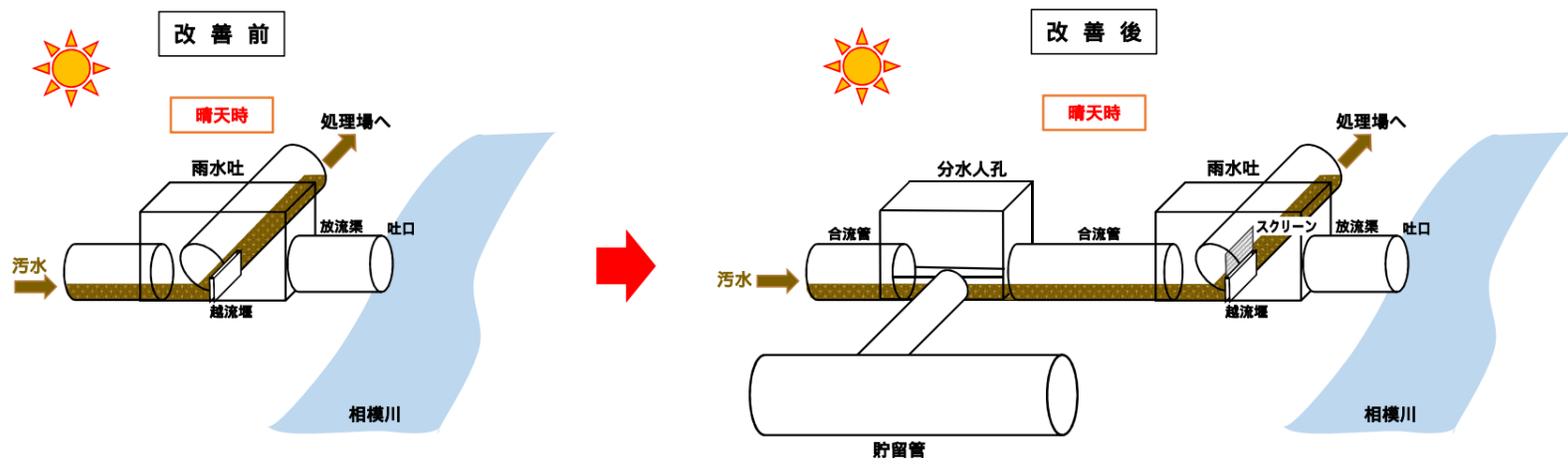
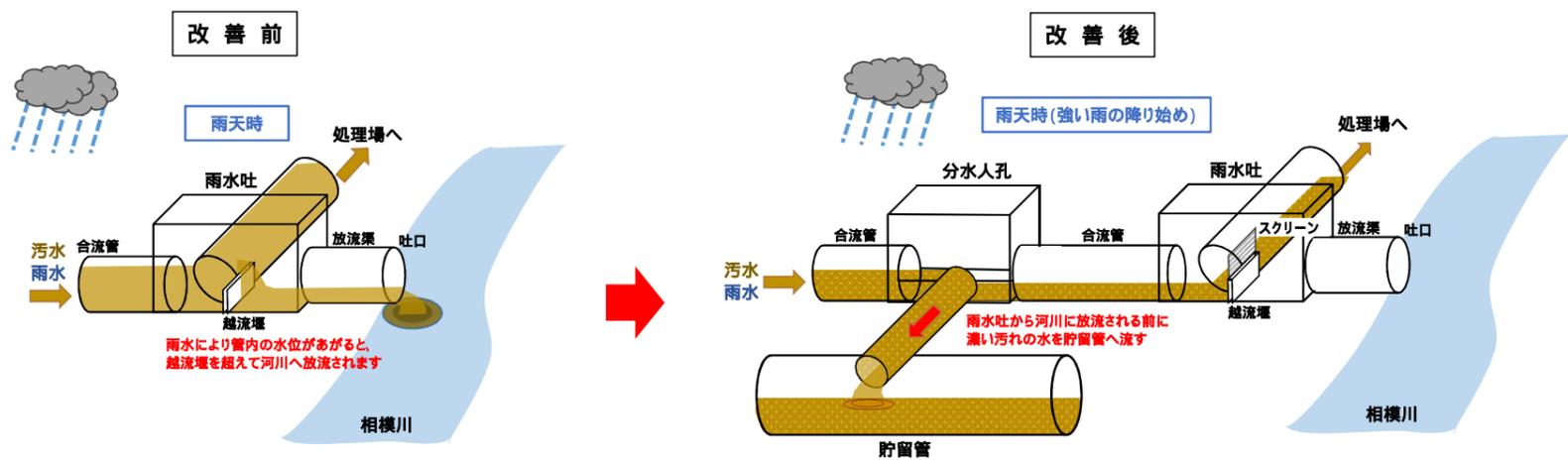


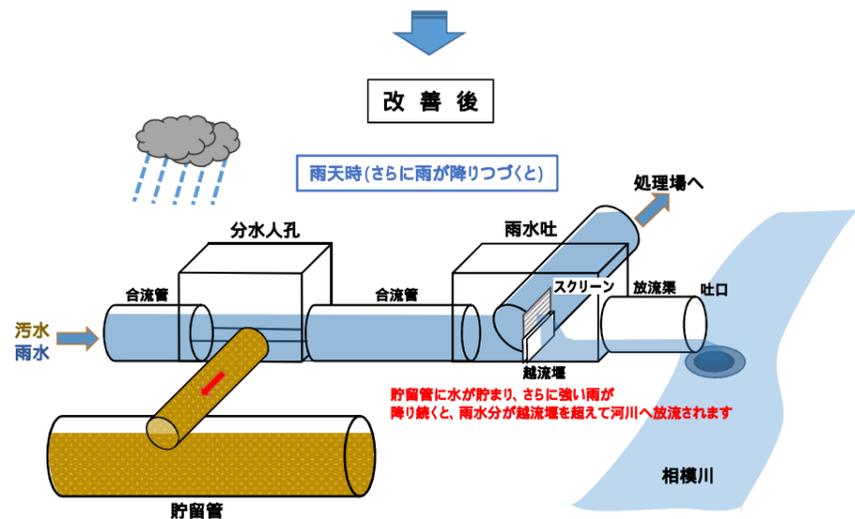
# 補足図：対策施設が河川への環境改善につながるしくみ



1. 晴天時は、改善前、改善後ともに処理場へ送られるため、河川への放流はありません。



2. 改善前は、処理場へ送ることができる水量を超えると、河川へ放流されます。改善後は、河川へ放流される前に、一時貯留管に貯めることで、放流量を減らします。



3. さらに強い雨が降り続けると、河川への放流が始まります。雨水で薄まった水が放流されるため、汚濁負荷量は少なくなります。また、スクリーンの設置により、夾雑物が放流されることを減らします。